



# 琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	与那国方言のモダリティ体系の記述( Abstract_論文要旨 )
Author(s)	目差, 尚太
Citation	
Issue Date	2020-03-24
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/45825">http://hdl.handle.net/20.500.12000/45825</a>
Rights	

様式第7号

学 位 論 文 要 旨

学位論文題目

与那国方言のモダリティ体系の記述

琉球大学大学院

人文社会科学研究科

比較地域文化専攻

学生番号

氏 名 目差 尚太

学位論文要旨（横書き楷書、ワープロ可、字数800字程度）

琉球方言研究においてモダリティ体系の記述的研究はほとんどない。最近では、  
2018 があるのみである。本研究は、  
2018 に続き、与那国方言のモダリティ体系の記述的研究である。

本論では、第1章でモダリティ研究の内容と方法、立場について理論的にまとめ、  
そのことをもとに、与那国方言におけるものがたり文、たずね文、はたらきかけ文、  
まちのぞみ文をあらわす様々な文法形式の意味・機能について記述した。与那国方言の  
モダリティ体系を記述して明らかになった独特なものには、本論第2章第2節の〈補足〉  
をあらわす nai の文や、〈本質的な特徴の判断〉をあらわす tira の文、さらに、  
第2章第5節第1項で条件可能をあらわす kirairu の文が、必然(必要)表現の文へ移  
行していること、さらに進んで、まちのぞみ文へ移行しつつあること、第3章では、  
標準語研究や方言研究において盛んに研究されている「確認要求」というモダリティを  
あらわす文法形式が、たずね文だけでなく、ものがたり文によっても実現されている  
こと、反語をあらわす形式に二つのタイプがあり、ものがたり文としての反語形式と、  
たずね文としての反語があることなどが、あげられる。

結論では、各文の通達的なタイプごとに特徴的な言語形式と言語現象をまとめた。  
そして、本研究で明らかになった様々なモダリティ形式とその特殊な言語現象で、  
与那国方言のモダリティ体系を複雑にしているのは、ものがたり文とたずね文である  
ことについてまとめた。これらの言語現象を明らかにするためには、モダリティ形式を  
文の通達的なタイプへ位置づけて、体系的に記述しなければならないことを述べた。